

原水協活動 FAX News

発行: 原水協禁止日本協議会

電話 03 5842 6031 FAX 03 5842 6033

URL <http://www10.plala.or.jp/antiatom/> Eメール antiatom55@hotmail.com 2007年11月7日 No.11

6・9
行動

核兵器廃絶、原爆症認定制度の抜本改正もとめ

日本原水協と東京原水協は6日、上野公園口で「すみやかな核兵器廃絶」、原爆症認定制度の抜本改定を求める緊急100万署名を集める「6・9」行動を行いました。

3歳の時に長崎の爆心地から6kmで被爆した戸瀬英男さんは、戦後62年間被爆者がどれだけ大変だったか日本政府に認めてもらい、非核三原則を法制化してもらいたいと訴えました。

日本平和委員会代表理事の佐藤光雄さんも、広島出身で8歳の時に身内13人が原爆に殺されたと自らの体験を語り、「非核日本宣言」を政府に迫っていこうと訴えました。

日本原水協の高草木博事務局長は、核兵器廃絶へ一人ひとりが声をあげようと訴え、年末に向かって被爆者援護連帯2000万円募金も呼びかけました。

1時間の行動で「すみやか」署名94筆、100万署名57筆、募金が5276円寄せられました。

北海道原水協は6日、「原爆症に苦しむ被爆者にあなのご支援を」と、6・9宣伝行動を札幌市中央区パルコ前で行いました。「14歳で少年飛行兵だった詩人です」と自己紹介した「北の詩人会議」の日下新介さんは、トルコの詩人の詩『死んだ女の子』を朗読しました。「核兵器をなくすることは過去の問題ではなく、今に生きる問題です」と、署名の協力を訴えました。



岡山県原水協は、6日、11月の6・9行動を岡山駅前で行いました。8団体8人が参加。チラシを配布し、すみやか署名を訴えました。通りかかったオーストラリアの女性は、中尾代表の訴えに快く署名に応じてくれました。



すみやか署名飛躍へ
ポスター増刷
新署名用紙完成
早めの注文・活用をお願いします。

この日は、2種類の被爆者署名に取り組みました。一つは、「被爆者の病状を『原爆症』と認めてください」と札幌地方裁判所に公正な判決を求める署名です。「認定制度の抜本的改正を求める緊急100万署名」は東京で開かれる12月4日行動に提出します。この日の行動には、国民救援会北海道本部、中央区原水協、西区年金者組合から参加しました。

広島県原水協と県被団協（金子一士理事長）は6日、広島市中区の繁華街で、国に原爆症認定問題の早期解決を求める署名活動を行いました。

25人が参加し、「被爆者の実態に即し、抜本的な制度見直しを」などと訴えながら買い物客や通行人に支援を求めるチラシ700枚を配りました。

金子理事長は、「今でも病気に苦しむ人がいる原爆被害の実情を知ってもらい、国が人道的立場で一日も早く認定基準を見直すよう支援をお願いしたい」と話していました。両団体が加わる「原爆訴訟を支援する会」は15日にも街頭で署名活動を行い、今月中に県内で3万筆を集める方針です。